



陽東中だより

第6号

平成30年9月28日
発行者 校長 酒井功夫

目指す生徒像 ～本気 勇気 元気 根気～

ご迷惑をおかけします

夏休みより北校舎と南校舎の前面（南側を向いている面）の外壁工事を行っています。時には、がががが・・・とストレスの溜まるすごい音がしています。陽東中も創立59年となり、現在の陽東小がある地からこの石井町に移転してきて42年が経ちます。校舎はずいぶんと老朽化が進み、施設・設備の両面に渡って改修が必要となってきました。今回の外壁工事は、少し黒ずんできた外壁の塗装をし直すだけでなく、安全面を考慮してのことで始められました。近年、日本のあちこちで地震等の自然災害が発生し、甚大な被害を受けています。地震によって外壁が崩落するかもしれません。安全に関することですので、すぐに対応することになったわけです。11月5日までが工期となっております。駐車スペース等でご不便をおかけすることになりますが、何卒ご理解いただけますようお願いいたします。



先輩から後輩へ

夏休みも終わり、3年生はいよいよ卒業後の進路に関して真剣に考えなくてははいけません。夏休みの猛暑も一段落して、授業中の様子を見てみると、3年生はもちろんのこと、1、2年生もしっかりと授業に集中しているように思われます。そんな中、学校では部活動や生徒会活動において、今まで活動の中心だった3年生から1、2年生にバトンを渡すときがやってきました。

まだ、文化部では3年生が部長を務めていますが、運動部では2年生が新部長となりました。12日の激励会では、各部からこれからの部活動そして新人戦に向けての意気込みを語ってもらうとともに、先輩からの激励の言葉をいただきました。

また、25日には、生徒会立ち会い演説会が行われ、会長候補として5人、2年男子副会長候補1人、2年女子副会長候補1人、1年男子副会長候補2人、1年女子副会長候補3人が所信表明を行いました。全員が堂々と自分の考えを発表し、翌日の投票に際して清き1票の投票をお願いしました。主張の内容としては、陽東中のよき伝統を受け継ぎ、思いやりのある、明るく楽しい学校にしたい。そのためには目安箱の活用方法を工夫し、生徒からの意見をしっかりと聞くとともに、あいさつ運動を活性化させたいといったことでした。



ひとりいち 教員の一人一授業が始まり授業力を高めています

昨年3月に新しい学習指導要領が告示されました。今度の学習指導要領は、2021年度から完全実施となりますが、今年度から少しずつ先行実施をしていかななくてはなりません。当然のことながら指導者である教師は、新学習指導要領に対応するための研修を積み、力を付ける必要があります。今回の改定ポイントは、一言で言うならば知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」となるようにしていくということです。



本校では、「一人一授業」と称して、すべての教員が授業を公開し、お互いに指導助言を仰ぎながら授業力を高めていくことをねらいとした取組を始めました。

また、11月16日（金）には、関東各地から社会科の先生方が集い、研修する関ブロ社会科栃木大会が、本校を会場に行われることになっています。本校では、松本尚樹教諭と刀麻由里教諭が授業を公開することになっており、日々授業案の検討を行っています。

このように、教職員も生徒と共に学び続けることを目指している陽東中学校です。

通知表の見方（保護者の方へ）

あっという間に今年度の半분이過ぎ、10月5日（金）に第1学期終業式を迎えます。そのときに1学期のまとめとして通知表が担任より渡されます。今回は、この通知表について保護者の皆様はこの通知表の見方について考えていることをお知らせしたいと思います。通知表は、お子様の学校での様子や活動ぶりを家庭にお知らせするものです。ご家庭では、この通知表によりいろいろなやり取りがあると思いますが、いかがでしょうか？



通知表は本来、子どもを励ますためにあると思ってほしいものです。子どもは誰でも励ましてあげると、やる気を出し、伸びようとしています。次の学習や行動への飛躍台になるのが通知表です。

中学校では、評価・評定の中心部分である見える学力（知識・技能、表現力）と見えにくい学力（関心・意欲、思考力・判断力）の両面から捉えています。特に最近では、生涯にわたって、個人で学び続けるのに必要な能力を身に付けること、学んだ知識や技能を活用し課題を解決していく力が大切だと言われています。

教科の評定では、観点別評価を中心にして日常の学習状況・到達度、定期テストの結果等を総合して評定を出しています。総合的な学習の時間の評価については、どのような活動を実施し、どのような力が身に付いたのかを文章で表しています。

担任の所見は、学校での生徒の様子を多面的に捉えて記述し、特に生徒の優れた面に着目しています。時には改善点や課題にも触れています。

学校の試験は、あらかじめ正解が用意されています。しかし、社会では、用意された正解はなく、自分なりの答えを出していく必要があります。創造的な能力が求められているのです。ユニークな発想をする子どもは、希に学校の勉強に順応することが難しい場合があります。長い目で子どもの成長を見守ってほしいと願っています。

次回は、勉強の仕方Part IIとして家庭学習のやり方について述べたいと思います。

- ・「陽東中だより」をはじめ、各種たよりや学校行事等の情報はホームページ「<http://www.ueis.ed.jp/school/yoto-j/>」にてご覧いただけます。
- ・ご感想、ご意見等は、E-mail「yoto-j@ueis.ed.jp」まで、お寄せください。